

平成21年度事業結果及び平成22年度事業計画の報告 (生態系保全アクションプラン【島毎の整理表】に基づく事業の進捗状況)

(1)父島列島(1/2)

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成20年度	平成21年度	平成22年度予定
父島	乾性低木林の保全及びムニンヒメツバキ林の保全	ノヤギ駆除	エリア排除完了 駆除着手・継続	柵内におけるノヤギの駆除を実施。【環境省】 左記の取組を継続。【小笠原村】 平成21年度から各機関連携のもと、戦略的に着手(全域)。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	東平柵一部設置【No.環2】	柵内排除計画検討【No.環2】 生息状況調査、排除計画検討【No.都1】	柵竣工~柵内排除開始【No.環2】 排除計画策定、排除【No.都1】
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	エリア排除継続・拡大	父島東平において、エリア排除を目指してモクマオウ等の駆除等を実施。また、夜明平において、NPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除の推進を継続。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続【No.林20】	東平で駆除継続【No.林20】 東部地区で分布調査、駆除前モニタリング【No.林16】 外来植物分布図等の作成【No.林15】	東平で駆除継続【No.林20】 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】 NPO等との協働駆除【No.林10】
		アカギ駆除	エリア排除継続	エリア排除完了以降は萌芽処理等を実施(東平アカガシラカラスバトサンクチュアリー)。【NPO等、林野庁】	東平で駆除継続【No.林20】	東平で駆除継続【No.林20】 東部地区で分布調査【No.林16】 外来植物分布図等の作成【No.林15】	東平で駆除継続【No.林20】 東部地区で駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】
		キバンジロウ駆除	エリア排除継続	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】		外来植物分布図等の作成【No.林15】 東部地区で分布調査等【No.林16】	東部地区で分布調査等【No.林16】
		ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】		外来植物分布図等の作成【No.林15】	東部地区で分布調査等【No.林16】
		ギンネム駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】		外来植物分布図等の作成【No.林15】 東部地区で分布調査等【No.林16】	東部地区で分布調査等【No.林16】
		希少植物種の保護	保護継続	東平に生育する希少植物種について、保護ネット設置箇所の巡視継続。【環境省】	巡視等【No.林18】	巡視等の継続【No.林18】	活動継続【No.林18】
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	ノネコ排除	エリア排除完了 排除継続	東平の柵内におけるネコの排除を完了。【環境省】 東平における柵及び捕獲の効果を検証の上、島内の排除策を検討。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 南部重要地域(既知のアカガシラカラスバト繁殖地周辺)を中心とする地域からネコの排除を実施、父島島内の生息密度の低下。【環境省】	東平柵一部設置【No.環2】 緊急捕獲の実施【No.林17】 緊急捕獲の実施【No.民1】	排除計画を策定、排除区周辺捕獲【No.環2】 緊急捕獲の実施【No.林17】 捕獲継続、範囲の拡大【No.民1】	排除継続、モニタリング【No.環2】 捕獲継続【No.民1】
		アカガシラカラスバト生息状況調査	(アクションプランに記載なし)		アカガシラカラスバト生息環境調査【No.林18、19】 サンクチュアリの維持【No.林20】	調査継続【No.林18、19】 サンクチュアリの維持【No.林20】	
	陸産貝類の生息地の保全	ニューギニアヤリガタリクウスムシ駆除	エリア防衛継続	陸産貝類生息地(巽崎・島山・夜明山等)にサンクチュアリーを設定、エリア防衛対策を実施。【環境省】	エリア防衛対策検討【No.環11】	設備の実地試験の実施、その他手法の検討【No.環11】	
		クマネズミ駆除	(中長期的に対応)				
	オガサワラオオコウモリの生息地の保全	オガサワラオオコウモリ保全対策	保護対策の拡充 保護と食害防除の両立	生息地について保護担保措置の検討も含めて対策を拡充。【環境省・林野庁・文化庁・東京都・小笠原村】 保護に配慮した食害防除法の開発・試行【文化庁・東京都・小笠原村】	食害防除法検討【文・東・小】	鳥獣保護区の見直し【環】 食害防除試験の実施【文・東・小】	生息状況調査【環】 食害防除試験の継続【文・東・小】
	固有昆虫類の生息地の保全	グリーンアノール駆除	(中長期的に対応)		(中長期的に対応)		
		モクマオウ・リュウキュウマツ駆除	エリア排除継続・拡大	再掲	再掲		
	その他の対策	グリーンアノール駆除	エリア排除(拡散防止)継続	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	二見港周辺の捕獲【No.環8】	二見港周辺の捕獲の継続【No.環8】	捕獲の継続【No.環8】
		オオヒキガエル駆除	エリア排除(拡散防止)継続	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【環境省】	二見港周辺の捕獲【No.環8】	二見港周辺の捕獲の継続【No.環8】	捕獲の継続【No.環8】
		ノネコ排除	条例の適正な運用による管理の徹底	飼育ネコ・ノラネコ対策を実施(95%以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・NPO】	マイクロチップ挿入【No.民2】 飼養実態調査【No.環4】	マイクロチップ挿入【No.民2】	派遣診療要請【No.民2】
		ニューギニアヤリガタリクウスムシ拡散防止	拡散防止の継続・普及啓発	父島二見港周辺において、属島への拡散を防止するため、駆除、監視、普及啓発を継続。【東京都】	拡散防止対策検討【No.環9】	拡散防止対策の試行【No.環9】	拡散防止の継続【No.環9】

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所

(1)父島列島(2/2)

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成20年度	平成21年度	平成22年度予定
兄島	乾性低木林の保全	ノヤギ駆除	-	-	残存個体の確認調査【No.都1】		
		クマネズミ駆除	根絶完了	周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	生息状況調査等【No.環7】	事前調査、駆除実施【No.環7】	モニタリング【No.環7】
		モクマオウ等駆除	エリア排除完了・拡大	台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	駆除試験の実施【No.環13】	駆除試験の実施、モニタリング【No.環13】	継続【No.環13】
		ギンネム駆除	エリア排除完了	平成22年度着手、平成24年度までに台地上緩傾斜地のエリア排除を目指して、駆除を実施。【林野庁】	分布調査等【No.林14】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】	駆除、駆除前後モニタリング等継続【No.林16】
		シチヘンゲ駆除	エリア排除完了	平成22年度から台地上緩傾斜地において、モクマオウ等の駆除と併せ小面積の試験的な駆除とその後のモニタリングを実施。【林野庁】 ボランティア・NPO・各機関連携のもと滝之浦の駆除を実施。	外来植物分布図等の作成【No.林15】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】	駆除、駆除前後モニタリング等継続【No.林16】
	陸産貝類の生息地の保全	クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	再掲		
	アカガシラカラスバトの生息地の保全	クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	再掲		
	その他	ノネコ排除	-	-	残存個体の確認調査【No.環5】		
		オガサワラハンミョウ・トンボ類の生息状況把握 (アクションプランに記載なし)				生息状況把握等【No.環17】	調査等の継続【No.環17】
	弟島	ムニンヒメツバキ林の保全	アカギ駆除	-	-	残存個体の確認調査【No.環12】	
ノヤギ駆除			根絶完了	根絶を目指して駆除を継続。【東京都】	排除、食害モニタリングの継続【No.環1】	最終モニタリング【No.環2】	
クマネズミ駆除			根絶完了	周辺属島も含めて根絶を完了。【環境省】	排除着手【No.都1】	排除継続【No.都1】	排除継続【No.都1】
モクマオウ・ギンネム等駆除			エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 国有林に生育する外来種(モクマオウ等、ギンネム)について、分布状況の調査等を行うとともに兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向けた検討を行い、22年度から着手。【林野庁】	外来植物分布図等の作成【No.林15】	分布調査、駆除前モニタリング【No.林16】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】
固有トンボ類5種など固有昆虫類の生息地の保全		ウシガエル駆除	-	-	残存個体の確認調査【No.環10】		
		ノブタ駆除	-	-	残存個体の確認調査【No.環6】		
		止水環境の回復	止水環境の整備	トンボ類等の水生昆虫類のモニタリング、回復を図るための止水環境の整備を継続。【環境省】		生息状況把握等【No.環17】	調査等の継続【No.環17】
アカガシラカラスバトの生息地の保全		モクマオウ等駆除	エリア排除着手	再掲	再掲		
		クマネズミ駆除	根絶完了	再掲	再掲		
		ノネコ排除	排除継続	根絶を目指して排除を継続。【環境省】		試験捕獲の実施【No.環5】	試験捕獲継続【No.環2】
西島	固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	根絶完了	根絶を完了。【環境省】		事前調査、駆除実施【No.環7】	モニタリング【No.環7】
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】 国有林については、平成22年度からNPO等と整備協定を締結しモクマオウ等の駆除を推進。【NPO、林野庁】		外来植物分布図等の作成【No.林15】	NPO等との協働駆除【No.林10】
東島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	クマネズミ駆除	-	-	駆除試験の実施【No.環7】	駆除実施【No.環7】	モニタリング【No.環7】
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除着手	兄島等におけるギンネム等の駆除結果に基づきエリア排除に向け、試験的な駆除を含めた検討を実施。【林野庁】		外来植物分布図等の作成【No.林15】	
南島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	シンクリノイガ等駆除	駆除継続	南島において、侵略性の高い外来植物種の駆除を継続。【東京都、林野庁、小笠原村、NPO】	駆除・モニタリング継続【No.都5、6】	駆除・モニタリング継続【No.都5、6】	駆除・モニタリング継続【No.都5、6】
		クマネズミ駆除	根絶完了	兄島・弟島終了後、対策を検討。【環境省】	島民による駆除【No.村1】		駆除の実施【No.村1】

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定 赤字:アクションプラン修正箇所



(2)母島列島

凡例：環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他(共同実施事業等)

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (~H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成20年度	平成21年度	平成22年度予定
母島	湿性高木林 やモクタチバナ 林、母島列島型 乾性低木林の 保全	アカギ駆除	駆除継続	中長期計画「外来植物(アカギ)除去計画」等に基づく駆除やモニタリングを継続。 【林野庁】 西台・衣箱の民有地からの駆除を継続し、庚申塚地区に着手。【環境省】	西台、石門地域で駆除、分布調査 【No.林13】	駆除継続、駆除前後モニタリング等【No.林16】	駆除、駆除前後モニタリング等 継続【No.林16】
		ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	民地における駆除実施【No.環12】	駆除の継続【No.環12】	
		モクマオウ・ギンネム駆除	駆除後のモニタリング継続	モクマオウ等の駆除区域への外来種の侵入状況等のモニタリングを継続(南崎地域)。【林野庁】 各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】	ボランティアによる駆除【No.林6】	ボランティアによる駆除(桑ノ木山等)【No.林6】	ボランティアによる駆除【No.林6】
						外来植物分布図等の作成【No.林15】	
						駆除前モニタリング【No.林16】	駆除、駆除後モニタリング【No.林16】
						外来植物分布図等の作成【No.林15】	
	オガサワラシ ジミなど固有昆 虫類の生息地 の保全	グリーンアノール駆除	新規排除エリアの設定 希少昆虫繁殖地でのポイント排除	新規自然再生区を設定(地域未定)。【環境省】 オガサワラシジミの繁殖地において、繁殖時期のポイント排除を継続(地域未定)。【環境省】	自然再生区での排除【No.環9】	排除の継続、新規再生区の検討【No.環9】	
		オオヒキガエル駆除	エリア排除完了	概ねエリア排除完了(南崎蓮池地区)。【環境省】	自然再生区での排除【No.環9】	排除の継続、新規再生区の検討【No.環9】	
		オガサワラシジミ等生息 地モニタリング	モニタリングの継続	昆虫類を中心とした生態系回復モニタリング及びシジミ等の保護増殖対策を継続。 【環境省、オガサワラシジミの会】		生息状況把握等【No.環17】	調査等の継続【No.環17】
		オガサワラカ ワラヒワや海鳥 類の生息地の 保全	ノネコ排除 (中長期的に対応)	(全島排除へ向けたスケジュールと調整しつつ、継続して検討)	南崎排除区モニタリング【No.環3】	モニタリング継続【No.環3】	モニタリング継続、全域調査【No.環3】
	アカガシラカ ラスバトの生息 地の保全	クマネズミ駆除 (中長期的に対応)					
		オガサワラカワラヒワ生息 環境調査	(アクションプランに記載なし)			固有鳥類生息環境調査等【No.林19】	調査継続【No.林19】
		アカギ駆除	駆除継続	再掲	再掲		
		ノネコ排除 (中長期的に対応)	再掲	再掲	再掲		
	陸産貝類の 生息地の保全	クマネズミ駆除 (中長期的に対応)	再掲	再掲	再掲		
		食餌植物の植栽	アカギ駆除継続	稚幼樹等の駆除等を継続。【林野庁】			
		アカガシラカラスバト生息 環境調査	(アクションプランに記載なし)		アカガシラカラスバト生息状況調査等 【No.林13】	固有鳥類生息環境調査等【No.林18、19】	調査継続【No.林18、19】
		固有陸産貝類の保全方 針の検討	具体的対策に着手	検討会での保全方針の検討結果を踏まえて、必要に応じ具体的な対策を実施。【環 境省】		生息状況把握、保全方針の検討【No.環11】	
	その他の対 策	ノネコ排除	条例の適正な運用による管 理の徹底	飼育ネコ・ノネコ対策の実施(95%以上の不妊去勢率達成・60%以上のマイクロチップ 挿入、条例改正)。【小笠原村・小笠原ネコに関する連絡会議・東京都獣医師会・ NPO】	飼養実態調査【No.環4】	集落地域における捕獲【No.環3】	全域調査【No.環3】
		ニューギニアヤリガタリク ウズムシ駆除	拡散防止の継続・普及啓発	母島及び属島への拡散を防止するため、都レンジャー等による普及啓発、ははじま 丸下船時の靴底の洗浄対策等を継続。【東京都】	普及啓発・利用者指導【No.都2】	普及啓発・利用者指導【No.都2】	普及啓発・利用者指導【No.都2】
向島	母島列島型 乾性低木林の 保全 固有鳥類等 の生息地の保 全	モクマオウ等駆除	エリア排除着手	空中写真による外来樹種の分布状況の把握、生息状況等の調査結果により平成23 年度から着手予定。【林野庁】		分布調査、駆除前モニタリング【No.林16】	駆除、駆除前後モニタリング等【No.林16】
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		オガサワラカワラヒワ等生 息環境調査	(アクションプランに記載なし)			固有鳥類生息状況調査等【No.林19】	調査継続【No.林19】
姉島	母島列島型 乾性低木林の 保全	モクマオウ等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】			
妹島	母島列島型 乾性低木林の 保全 固有鳥類等 の生息地の保 全	ギンネム等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】			
姪島	母島列島型 乾性低木林の 保全	ギンネム等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】			
平島	固有種等に 配慮した生態系 管理	アカギ駆除	-	-			
		モクマオウ等駆除	現況把握	外来種(モクマオウ、ギンネム等)の分布状況の調査を実施。【林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		クマネズミ等駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】			

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定

(3) 聳島列島

凡例： 環境省事業 林野庁事業 東京都事業 小笠原村事業 その他【共同実施事業等】

島名	対策の方向性	取組の項目	推薦後の短期目標 (～H24年度末)	対策の内容	事業進捗		
					平成20年度	平成21年度	平成22年度予定
聳島	モクダチバナ林を中心とした生態系管理 固有昆虫類の生息地の保全	ギンネム駆除	根絶完了	ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	生育状況調査、排除継続【No.都3】	生育状況調査、排除継続【No.都3】 空中写真撮影【No.林15】	調査、排除継続【No.都3】 外来植物分布図等の作成【No.林15】
		タケ・ササ類駆除	根絶完了	ギンネム、タケ・ササ類の駆除を継続し、残存林保全に向けて順応的管理を実施。【東京都】	生育状況調査、排除継続【No.都3】	生育状況調査、排除継続【No.都3】 空中写真撮影【No.林15】	調査、排除継続【No.都3】 外来植物分布図等の作成【No.林15】
		ガジュマル駆除	エリア排除着手	各機関連携のもと駆除に着手・完了。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
		クマネズミ駆除	根絶完了	聳島での根絶を完了。【環境省】	駆除試験の実施【No.環7】	駆除実施【No.環7】	モニタリング【No.環7】
	アホウドリ類3種の繁殖地の保全・形成	アホウドリ新繁殖地形成	継続	繁殖期に、アホウドリの繁殖地である伊豆諸島鳥島から聳島までヒナを移送・放鳥し、巣立ちまで人工飼育を継続。【環境省】	繁殖地形成事業【環】	繁殖地形成事業継続【環】	繁殖地形成事業【環】
		アホウドリ類繁殖状況調査	(アクションプランに記載無し)		繁殖状況調査【No.都10】	繁殖状況調査【No.都10】	繁殖状況調査【No.都10】
		シチヘンゲ駆除	現況把握	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 各機関連携のもと、必要に応じて戦略的に駆除に着手。【環境省、林野庁、東京都、小笠原村】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
北ノ島	海鳥類の繁殖地の保存 固有種等に配慮した生態系管理	外来植物等駆除	現況把握	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】		クマネズミ薬剤散布【No.環7】 空中写真撮影【No.林15】	モニタリング【No.環7】 外来植物分布図等の作成【No.林15】
	煤島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	ギンネム駆除	根絶完了	土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	調査、土壌流出防止、排除【No.都3、4】 空中写真撮影【No.林15】	継続実施【No.都3、4】 外来植物分布図等の作成【No.林15】
タケ・ササ類駆除		根絶完了	土壌流出対策とともに、ギンネムなどの外来種の駆除を継続し、土壌流出防止及び残存林保全むけて順応的管理を実施。【東京都】	調査、土壌流出防止、排除【No.都3、4】	調査、土壌流出防止、排除【No.都3、4】 空中写真撮影【No.林15】	継続実施【No.都3、4】 外来植物分布図等の作成【No.林15】	
クマネズミ駆除		根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】		事前調査、駆除実施【No.環7】	モニタリング【No.環7】	
嫁島	海鳥類の繁殖地の保全 固有種等に配慮した生態系管理	タケ・ササ類駆除	駆除着手	空中写真による外来樹種の分布状況の把握。【林野庁】 平成22年度からNPO等と整備協定を締結しタケ・ササ類の駆除を推進。【NPO、林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】
	クマネズミ駆除	根絶完了	父島列島の終了状況を見ながら駆除に着手。【環境省】				
西之島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	現況把握	現況把握により外来種等の侵入状況を監視。【林野庁】		空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布状況把握【No.林15】
北硫黄島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	(中長期的に対応)		アカガシラカラスバト調査【No.都8】	アカガシラカラスバト調査【No.都8】 空中写真撮影【No.林15】	ハト調査【No.都8】 外来植物分布図等の作成【No.林15】
	海鳥類の繁殖地の保全	ネズミ類駆除	(中長期的に対応)				
南硫黄島	現況把握の実施	現況把握のための調査の実施	(中長期的に対応)			空中写真撮影【No.林15】	外来植物分布図等の作成【No.林15】

■:現時点で概ね完了 ■:H24年度末時点までに完了予定

平成21年度事業結果及び平成22年度事業計画の報告 (詳細事業内容)

実施機関：環境省関東地方環境事務所

事業項目			平成20年度		平成21年度		平成22年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果(概要)	
ノヤギ	環1	外来動物対策調査 (弟島ノヤギ食害モニタリング)	弟島	ノヤギ排除の状況を受けて、廃止を検討。	ノヤギの生息状況、ノヤギによる他の生物への影響、土壌流出状況の概況を把握。また、ノヤギ排除に伴う外来植物のモニタリングを開始した。 ノヤギ排除方法を検討。罨及び銃器によりノヤギ排除を試行した。 食害モニタリングを継続して実施した。	20年度後半から東京都によりノヤギ排除事業が開始されたため、食害モニタリングの最終調査とノヤギ排除柵の解体を行なう。		
ノヤギ・ノネコ	環2	外来動物対策調査 (ノヤギ・ネコ侵入防止柵検討)	父島	東平地区における柵設置ラインの検討	東平地区の現地調査と専門家ヒアリングにもとづき、希少動植物に影響の少ない拡大排除区(2.1平方キロ)の決定。	一部区間のノヤギ・ノネコ柵設置工事を完了。 ノネコ排除に向けた情報収集と父島内での試験捕獲開始 排除区設定に関わる調査・事前モニタリング 侵入防止柵内のノヤギ排除計画及びモニタリング計画を立案する。	環境配慮作業を実施しながら、ハト繁殖開始までの期間に南側ラインと都道沿い一部区間の施工を完了。 山域ネコ排除計画案を策定し、効果測定のネコ生息のモニタリングを開始した。また排除区周辺を含めた父島内でのノネコの試験捕獲を開始した。 アカガシラカラスバト、オガサワラノスリ、クマネズミの事前モニタリングを開始し、柵路線上の希少植物調査等を踏まえて環境配慮面から施工に関わる留意事項の整理と技術指導を実施。 侵入防止柵内のノヤギ排除計画、ノヤギ及び植生のモニタリング計画を立案した。	排除区拡張区間の検討と、ノヤギ・ノネコ柵設置工事の完了。 排除区設定に関わる調査・モニタリング(継続) 排除区および父島山域におけるノネコ捕獲およびモニタリング ノヤギ及び植生モニタリングを開始する。また、侵入防止柵完成後にノヤギ排除を開始する。 住民等への周知
ノネコ	環3	(環2の一環) (環9の一環) (ネコ侵入防止柵設計)	母島	南崎先端部排除区モニタリング実施。 南崎広域排除区の基本計画検討	オナガミズナギドリ繁殖規模(繁殖数、巣穴数)が増加し、海鳥繁殖場として復元中。カツオドリについては営巣が行われていないまま。 南崎広域排除区における柵設置ライン案を南崎ロータリー周辺部に選定。	南崎先端部排除区モニタリング実施。 南崎広域排除区整備に関するモニタリング 集落地域における飼いネコ・ノラネコ対策	オナガミズナギドリ繁殖規模がさらに増加し、海鳥繁殖場として復元中。カツオドリについては営巣が行われていないまま。 南崎半島部でのネコ捕獲とルートセンサスを実施し、この地区においてネコ捕獲後には高密度で生息していないことが判明。 村事業の支援として母島沖港周辺においてノラネコ13頭を捕獲。	南崎先端部排除区モニタリング実施。 南崎広域排除区の整備に関する希少生物の情報収集 母島におけるノネコ生息のモニタリング開始
ノネコ	環4	飼養動物実態調査 (環2の一環)	父島・母島	父島における動物調査	父島集落において訪問調査、センサス調査により飼いネコ84頭を確認し、不妊化率96.4%、マイクロチップ処置率8.3%であった。その他飼い主不明ネコが50頭ほど生息していた。			
ノネコ	環5	外来ほ乳類対策	兄島・弟島			踏査および自動撮影機等による生息状況調査を実施。 弟島における試験捕獲を実施。	兄島では、ノネコの新しい痕跡及び個体の発見に至らなかった。弟島では、島内全域に痕跡が確認され、特に北部と南部に痕跡が多く確認された。 カゴワナによる試験捕獲の結果、弟島北部で2頭捕獲された。	踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 弟島における試験捕獲を継続する。
ノブタ	環6	外来動物対策調査 (ノブタ駆除の検討と先行実施)	弟島	ノブタ駆除継続。踏査射撃や探索犬の使用を検討。モニタリング調査	踏査射撃を行ったが、痕跡および個体の発見に至らなかった。 ・全島踏査による痕跡調査、および自動撮影機(6台)による残存個体の確認を行った。11月時点では、カメラに個体は撮影されておらず、また新しい痕跡も確認されていない。	踏査および自動撮影機等による残存個体の確認調査を継続。 探索犬による駆除作業の実施。 モニタリング調査の継続(陸産貝類)。	踏査および自動撮影機による痕跡等調査の結果ではノブタの痕跡および個体の発見に至らなかった。探索犬による個体の探索を行ったが、残存個体の確認に至らなかった。これらの状況から、環境省により、弟島のノブタの根絶が宣言された。 陸産貝類調査の結果、種構成についてはノブタが生息していた時期の傾向とほぼ同程度であった。	踏査および自動撮影機による残存個体の確認調査を継続する。 残存個体が確認された場合、銃器などを使用して効率的に排除する。



事業項目				平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果(概要)	事業内容(案)	
				希少昆虫相回復事業に着手。	・生態系への影響を把握するため、昆虫類(甲虫類)および陸産貝類のモニタリング調査を実施した。 環 10 参照。		一方、ノブタが生息していなかった弟島南端部では、固有種が高密度に生息しており、今後生息域を拡大することが期待される。		
クマネズミ	環 7	外来動物対策調査(聳島・東島・兄島排除計画検討)	聳島・東島、兄島	聳島、東島での排除試験実行。  兄島全島駆除に向けて、保全対象種の基礎的情報収集、環境影響予測、排除手法の検討開始。	聳島(属島鳥島を含む)および東島での排除試験を実施し、個体数の大幅な減少を確認した。ただし、聳島属島の鳥島については平成 21 年 3 月にクマネズミの生存個体を確認し、緊急的に追加駆除を実施 兄島について、駆除の事前調査としてネズミ類の捕獲調査などを実施。生息密度は聳島などよりやや低いことを確認	聳島、東島のネズミ類生存状況モニタリング調査および生存個体発見時の緊急的対応の実施 兄島、弟島における排除試験実行のための事前調査(ネズミ類生息調査、オガサワラノスリ生息調査、ネズミ類駆除計画策定など) 兄島、弟島などでの排除試験の実施 駆除によって生息に影響が生じることが予想されるオガサワラノスリ等のモニタリング調査を実施	駆除実施地域である聳島、西島においてクマネズミの生息を確認  現地での事前調査、海外専門家、国内研究者からのヒアリングなどにより、聳島、兄島、弟島、西島、東島などでの駆除実施計画を策定  聳島、兄島、弟島、西島、東島などで殺鼠剤(ダイファシノン製剤)の空中散布による駆除実施 兄島と弟島で合計 11 つがいのオガサワラノスリの繁殖を確認。	聳島、兄島、弟島、西島、東島など駆除実施地域でのネズミ類生息状況のモニタリング調査 駆除によって影響が生じる可能性があるオガサワラノスリ、アホウドリ類などのモニタリング調査 駆除の効果を把握するための陸産貝類、鳥類などの生息状況調査 母島列島など、駆除未実施地域の事前調査	
グリーンアノール	環 8	外来生物重点防除事業(父島アノール対策)	父島	重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。 これまでの調査で明らかになった、山地から重点防除区域にアノールが分散してくる経路「アノールコリドー」において重点的な対策を実施。 島民による捕獲体制の確立を目指す。	・二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により 2009 年 3 月末までにグリーンアノール 3,990 個体を捕獲した。 ・重点防除区域にアノールが分散してくる経路「アノールコリドー」周辺やアノールが生息しやすい場所を特定し、ギンネム等の草刈等、植生管理を実施した。 ・防除区域(大村、西町、清瀬、宮ノ浜、奥村の各集落)において、ボランティア捕獲員に個別に講習を行い、延べ 29 人による捕獲を継続し、通信を作成・配布した。 ・アノール防除事業について住民にチラシを作成して父島、母島の全戸に配布した。	重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。  これまでの調査で明らかになった、山地から重点防除区域にアノールが分散してくる侵入経路「アノールコリドー」等において重点的な対策を継続して実施。 属島へのアノールの侵入に対する早期対処の作業を実施する。  オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討する。  島民等に対するアノール防除事業の普及啓発を実施する。	・二見港周辺の重点防除区域及び移動経路となる地域において、専属捕獲員により、捕獲開始から 2010 年 3 月末までにアノール 5,467 個体を捕獲し、防除実施前と比べ密度を 24.5% にまで減少させた。 ・防除区域において、ボランティア捕獲員、延べ 19 人による捕獲を継続した。 ・重点防除区域にアノールが分散してくる経路「アノールコリドー」周辺やアノールが生息しやすい場所を特定し、ギンネム等の草刈等、防草シート設置など植生管理を実施し、効果が得られた。 ・関係者への聞き取り等の結果、属島への侵入は確認されなかった。また、アノール侵入に備えた初動体制の検討を行い、捕獲用具を設置した。 ・オオヒキガエルが属島に移入するのを防ぐため、港湾周辺に防除区域を設定した。防除区域内では集中捕獲を実施し、成体・幼体 151 個体を捕獲した。 ・外来動物対策に関するパンフレットを 5,000 部作成し、小笠原村、観光協会等に配布した。また、父島・母島に全戸配布を行った。併せて英語版を 1,500 部作成し、小笠原村、小笠原村観光協会等に配布した。 ・業務の進捗を踏まえ、過去に作成した外来両生爬虫類のパンフレットの改訂を行い、各 3,500 部作成した。 ・業務関連の画像、映像素材の収集を行った。 ・事業説明会・講演会等実施した。	重点防除区域を中心に、グリーンアノールの捕獲及び生息状況のモニタリングを継続する。  引き続き重点防除区域にアノールが分散してくる侵入経路「アノールコリドー」等において重点的であり効果的な対策を実施する。 属島へのアノールの侵入に対する早期対処の作業を実施し、普及啓発を図る。  オオヒキガエルの防除方法、体制等を検討し、生態系影響を評価する。  島民等に対する業務の普及啓発を実施し、IUCN による視察等への対応可能な外来動物対策資料を作成する。	

事業項目				平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果(概要)	事業内容(案)	
グリーンアノール オオヒキガエル	環 9	外来両生爬虫類対策事業 (母島アノール対策事業)	母島	自然再生区内においてアノールを排除し、在来昆虫類の回復を目指す。  新たな自然再生区の設定について検討する。 希少昆虫類の生息環境の整備する	新夕日ヶ丘の自然再生区からアノールをトラップを用いて排除した(2009年6月末までに約2,100個体を排除)。南崎の草原ではアノールを、蓮池ではオオヒキガエルを主な対象にモニタリングを行い、生息数は少ないことを確認した。  新たな自然再生区の設定について引き続き検討を行った。 新夕日ヶ丘の自然再生区に希少昆虫の生息環境を提供するため、在来樹を植栽した。その際、導入による影響がないよう導入の仕方や管理方法について整えた。	引き続きアノール、オオヒキガエルの排除を実施する。  新たな自然再生区として南崎地域を検討するため、動物相の事前調査を行う。  自然再生区を整え、固有昆虫類の回復を図る。	・新夕日ヶ丘自然再生からのアノールの排除作業を継続し、アノール密度を捕獲前の20%程度まで低下させた(平成22年3月までの捕獲総数は約2450個体)。 ・南崎の草原ではアノールのモニタリングを継続した。蓮池ではオオヒキガエルの繁殖は確認され、繁殖阻止が継続している。 ・各地域では昆虫類のモニタリングを実施した。 ・南崎地域の土壌動物相を調査し、保全すべき動物群の分布域を明らかにした。これに従い、防除柵を設置する際の予定地を検討した。 ・オガサワラセセリの生息が確認された。 ・植樹した在来樹の管理を行っている。生育状態は良好で、希少昆虫の生息環境は向上している。		
ウシガエル	環 10	外来両生爬虫類対策事業 (弟島ウシガエル駆除)	弟島	卵塊、鳴き声調査による残存個体のモニタリングを継続。  トンボ類の回復を図るために弟島の止水環境を整備する。	トラップによる捕獲作業、ボイスレコーダーを用いたモニタリングを継続中。ウシガエルは1個体も捕獲されず鳴き声も記録されないことから、昨年度に引き続き繁殖を阻止することに成功している模様。 トンボ類の安定した繁殖のための止水環境を整備するに当たり、人工池の設置場所およびその構造について検討した。	捕獲カゴ、ボイスレコーダを用いた根絶確認のモニタリングを継続する。  トンボ類の回復を図るための安定した止水環境として、人工池を設置する。	トラップによる捕獲作業、ボイスレコーダーを用いたモニタリングを継続した。ウシガエルは全く捕獲されず鳴き声も記録されないことから、環境省により根絶が宣言された。 トンボ類の人工繁殖池を10面設置した。その後、池の周囲を改修し、より自然に近い環境を創出した。人工池内で固有トンボの幼虫が確認された。		
ニューギニアヤリガタリクウズムシ	環 11	ブラナリア対策・陸産貝類保全調査 (～H18年度:小笠原国立公園生態系特定管理手法検討調査)	父島	重要地域エリア防衛のための具体的な対策(ブラナリア類進入防止帯の整備等)を試行し、有効性の検証を開始する。  新たな外来土壌生物の持ち込み対策の検討	ブラナリア対策については、平成19年度に引き続き父島における陸産貝類・ブラナリア類のモニタリング調査を行っている。また、平成19年度業務で検討を行った侵入防止対策の方針、事業実施計画及び管理モニタリング計画について、専門家との合意形成と、事業実施に向けたより詳細な検討を進めている。 新たな外来土壌生物の持ち込み対策については、侵入防止等に関するガイドライン整備に向けた検討、農業種苗のポット苗土壌に含まれる土壌動物の殺虫に関する試験・検討等を行った上で、その実施に必要な施設・制度について検討を行っている。	重要地域エリア防衛のための具体的な対策(ブラナリア類進入防止柵の実地試験等)を試行し、侵入防止設備の事業実施計画及びモニタリング計画を作成する。  新たな外来土壌生物の持ち込み対策の検討	(実施中) ・平成20年度に引き続き父島における陸産貝類・ブラナリア類のモニタリング調査を行っている。 ・平成20年度業務で検討を行った侵入防止柵の実地試験を行う予定。 ・上記の結果を踏まえて侵入防止設備の事業実施計画及びモニタリング計画を作成予定。 侵入防止等に関するガイドライン整備、資材・機材等に付着する外来種の殺虫に関する試験・検討等を行った上で、実施に必要な施設・制度について検討を行っている。		

事業項目				平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
種名	環	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果(概要)	事業内容(案)	
アカギ	環 12	アカギ対策検討調査	母島、弟島	母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。 上記駆除試験実施個所のモニタリング  上記駆除試験実施のための用地確保  既往試験地でのモニタリングの実施  アカギ対策の普及啓発活動の実施	母島庚申塚地域民有地において駆除試験を実施。実施面積は 39.2ha。東港入り口から二十丁峠手前にかけての都道両脇を主体とする範囲。 駆除実施箇所のモニタリングとして、植生、デリス、薬剤成分の残留、イエシロアリを実施。母島長浜トンネル～東港にかけて局地的にイエシロアリが侵入しており、監視体制を整備。 駆除試験地確保のため、地権者の探索及び承諾書の取得作業を実施。承諾書を取得できたのは、筆数 310、地籍面積 694,475m <sup>2</sup> 、32 名。承諾書未獲得の 8 名は所在不明による未交渉が主な理由。 弟島、母島(長浜、衣笠、東台)の既往試験地でのモニタリング調査を実施。弟島では少数ながら残存個体や実生を確認(処理済み)。母島では、再侵入が確認され、今後の再度処理の実施必要性を確認。 農地における島民との協同駆除の実施(母島評議平)。横浜開港記念イベントにおけるしほや木工塾との協同でのアカギ箸ワークショップの開催(島外初)。	母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。  上記駆除試験実施個所のモニタリング  上記駆除試験実施のための用地確保  既往試験地でのモニタリングの実施  アカギ対策の普及啓発活動の実施	母島長浜地域民有地において駆除試験を実施。実施面積は 31.9ha。平成 20 年度箇所に隣接して南側～長浜トンネル南側までの都道両脇を主体とする範囲。平成 22 年度中には椰子浜、長浜以北(国立公園内)民有地で承諾書を取得できる土地については駆除試験完了の見通し。 駆除実施箇所のモニタリングとして、植生、デリス、薬剤成分の残留、イエシロアリを実施。 駆除試験地確保のため、地権者の探索及び承諾書の取得作業を実施。承諾書を取得できたのは、筆数 185、地籍面積 365,035m <sup>2</sup> 、13 名。承諾書未獲得の 4 名は所在不明による未交渉。未承諾地の存在は、事業実施上の大きな障害になっている。 弟島、母島(南崎)の既往試験地でのモニタリング(「小笠原地域自然再生事業外来ほ乳類対策調査業務」との連携による実施)を実施。弟島では、ギンネム、ガジュマル実生の駆除も実施。 農地における島民との協同駆除の実施(母島フルーツランド)。しほや木工塾との協同による母島におけるアカギ材を用いた木工教室の開催及び池袋サンシャインにおけるイベント「アイランダー2009」でのアカギ箸ワークショップの開催。雑草及び農薬に関する講演会(講師:竹内安智氏)を母島、父島で開催。	母島の椰子浜、長浜以北(国立公園内)からの成木根絶を目指した駆除試験の継続。 上記駆除試験実施のための用地確保 既往試験地でのモニタリングと駆除対策の追加実施 固有昆虫やアカガシラカラスバト等の希少種の生息環境の保全のための駆除試験及びモニタリングの実施。 父島東平地区の主に民有地、都有地における外来植物駆除の実施。 「小笠原地域自然再生事業外来ほ乳類対策調査業務」との連携による実施 アカギ対策の普及啓発活動の実施	
モクマオウ(リュウキュウマツを含む)	環 13	外来植物対策調査業務(モクマオウ・リュウキュウマツ対策)	兄島	兄島台地上における駆除試験の実施  新規試験地のモニタリング 既往駆除試験地のモニタリング  ランタナ、ガジュマル、ギンネムの駆除試験	薬剤注入処理による技術手法の試験を兄島台地上の国有林野内 10.09ha で実施。枯死率は、モクマオウ、リュウキュウマツとも 99% を超え、伐倒を主体とする既往手法と比較して効率、効果ともに優れる。 新規試験地において自然植生の回復状況などの各種モニタリング調査を実施。 既往試験地での各種モニタリング調査の継続実施。既往駆除手法の生残率調査の実施。生残個体は追加して薬剤注入処理を施す。 試験地内に侵入してきたパイオニア型のランタナ、ガジュマル、ギンネム個体の枯殺処理及び枯殺手法について試験を実施。	兄島台地上における既往駆除試験のモニタリング 既往駆除試験地における残存木処理 ランタナ既往試験地におけるモニタリング 弟島におけるギンネム、ガジュマル実生個体の駆除	実施中(～8月末)	兄島台地上における既往駆除試験のモニタリングおよび侵入個体の駆除処理 弟島におけるギンネム根絶に向けた駆除処理の継続実施、ガジュマル実生個体の駆除及び弟島における外来植物監視体制の構築	
ギンネム、タケ類、	環 14	外来植物対策調査業務(聳島ギンネム・タケ駆除)	聳島	情報確認中	情報確認中	情報確認中	情報確認中		
昆虫類	環 15	外来昆虫(ゾウムシ)緊急調査業務	父島・母島他	情報確認中	情報確認中	情報確認中	情報確認中		
水生生物	環 16	水生生物調査業務	父島・母島	課題の検討と今後の方針の整理 ヌメカワニナなどの実態把握	情報確認中	情報確認中	情報確認中		
希少昆虫類	環 17	小笠原希少昆虫保護増殖事業に関する調査等業務	父島 属島、母島 属島	(21年度開始業務)		オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境調査、課題の抽出、普及啓発の促進、検討会の開催。	各種の生息可能性の高い地域において、生息状況調査及び生息環境調査を行った。 これまでの知見及び上記調査結果をもとに、種ごとの短期・中期の具体的な課題及び対応策を抽出した。 昆虫 5 種の保護に対する理解と協力を得るため、パンフレットの作成及び住民説明会を開催した。 関係行政機関、研究者及び地元の団体等による連絡会議を設置し、第 1 回連絡会議を開催した。	オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、オガサワラアオイトトンボ、ハナダカトンボ、オガサワラハンミョウの生息状況調査、生息環境調査、保護増殖事業中期実施計画案の策定、シュロガヤツリ(外来植物)の試験駆除、普及啓発の促進、連絡会議の開催。	



実施機関：林野庁関東森林管理局

事業項目				平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)	
アカギ	林 13	外来植物(アカギ)駆除対策	母島	19年度の「外来植物(アカギ)除去計画調査」等に基づき、アカギの駆除等を実施	母島西台(15.66ha)において、薬剤の樹幹注入によるアカギ駆除を実施した。 順応的な管理のため、陸産貝類、植生等の事前モニタリング調査を実施した。 母島石門地域(下の段 6.31ha、中の段 4.0ha)において、アカギ駆除木のマーキングを実施した。	(駆除後のモニタリング等は林 16 で実施予定)			
外来植物(アカギ、モクマオウ等)	林 15	小笠原諸島外来植物分布状況調査	小笠原諸島	-	-	20年度撮影の空中写真(父島列島、母島)により外来植物の分布状況等を分析予定。小笠原諸島全域について空中写真撮影を予定	20年度撮影の空中写真(父島列島、母島)により外来植物の分布状況等を分析し、分布図を作成するとともに駆除優先地域の選定及び判読精度の検証(判読結果と現地の検証)を行った。判読精度は77%であった。また、小笠原諸島全域について、21年度に空中写真撮影を行った。	21年度撮影の空中写真により、21年度実施箇所以外の島(母島列島のうち、向島・姉島・妹島・姪島・平島、鴎島列島、火山列島及び西ノ島)の外来植物の分布状況等を分析予定。	
	林 16	森林生態系の修復を目的とした外来植物の駆除	母島、父島、兄島等	-	-	アカギ等について、母島石門地域(下の段、中の段等)、西台、桑の木山で駆除、萌芽刈払い等を予定 モクマオウ等について、兄島、父島で駆除を予定 20年度外来植物駆除地である、母島西台、南崎において、事後のモニタリング調査を予定 21年度以降の駆除予定地である父島東部、兄島、弟島、母島石門、西台、向島等で事前モニタリング調査を予定	アカギについて、母島石門の下の段及び中の段(10.31ha)で薬剤注入による駆除(約180本)並びに稚幼樹の抜き取り及びパパイアの刈払いを実施。長浜等(2.55ha)でアカギ等の樹幹注入による駆除(65本)及び稚幼樹の抜き取り、桑の木山(0.93ha)で薬剤注入による駆除等(約200本)を実施した。 モクマオウ等について、兄島(7.95ha)で薬剤注入による駆除(約60本)を実施した。 20年度外来植物駆除地である、母島西台、南崎において、事後のモニタリング調査を実施した結果、薬剤注入木は全て枯死するとともに昆虫や陸産貝類等への駆除の影響は確認されなかった。 21年度以降の駆除予定地である父島東部(約28ha)、兄島(約15ha)、弟島(約5ha)、母島石門(約17ha)、西台(約11ha)、向島(約19ha)で、侵略的外来植物(アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネム、ランタナ、ガジュマル等)の分布及び希少種の分布調査を実施した。	薬剤注入による駆除を、父島東部(約28ha)でアカギ、リュウキュウマツ、モクマオウを約160本、兄島(約13ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ギンネムを約220本、弟島(約7ha)でモクマオウ、リュウキュウマツ、ソウシジュ等を約320本、母島石門(約17ha)でアカギ、ガジュマル等を約720本、西台(約11ha)でアカギ等を約150本、向島(約19ha)で、モクマオウ、ギンネムを約160本を駆除予定。 また、稚幼樹の抜き取り等を兄島でランタナ、ホナガソウ等を、母島石門及び西台でアカギ及びパパイアを、母島南崎でギンネム等を予定。 外来種駆除に当たっては、順応的な管理のため、事前モニタリング・事後モニタリングを実施予定 22年度以降の駆除予定地である父島東部(旭山約42ha、桑の木山約36ha)、兄島(約22ha)、弟島(約19ha)、母島石門(約18ha)、西台(約18ha)、向島(約17ha)で事前モニタリング調査を予定。	

種名	事業項目			平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)		
モクマオウ (リュウキュウマツを含む)	林 4	小笠原諸島における外来植物調査(モクマオウ、リュウキュウマツ等の駆除対策を実施するための資料の収集)	小笠原群島	母島南崎において、固有種等の生育状況、モクマオウの萌芽状況の調査を継続実施	モクマオウ駆除後の固有種等の生育状況について、19 年度に設置した6プロットにおいて、継続して調査を行った結果、個体数については、大きな増減は見られなかったが、それぞれの個体は順調に生育していた。 19 年度に伐倒駆除したモクマオウの伐根からの萌芽状況について、10 本を対象に調査を行っており、21 年3月において、萌芽が残存している伐根は2本のみとなっている。	母島南崎に設置したプロットにおいて、駆除後の固有種等の生育状況、モクマオウの萌芽状況の調査を継続実施	モクマオウ駆除後の固有種等の生育状況について、19 年度に設置した6プロットにおいて、継続して調査を行った結果、個体数については、大きな増減は見られなかったが、それぞれの個体は順調に生育していた。 19 年度に伐倒駆除したモクマオウの伐根からの萌芽状況について、10 本を対象に調査を行っており、22 年3月において、萌芽が残存している伐根は、H21 年度末と同じ2本のみとなっている。	(生育状況、モクマオウの萌芽状況の調査は林 16 で実施予定)	
	林 14	外来植物(モクマオウ)駆除対策	母島 父島 兄島	向島外来植物駆除対策調査等に基づき、モクマオウ及びリュウキュウマツの駆除を実施	母島南崎において、モクマオウの伐倒駆除(2.27ha)を実施した。 19 年度モクマオウ駆除跡地に侵入したギンネムの刈払い等による駆除(0.96ha)を実施した。 順応的な管理を行うため上記駆除地において、陸産貝類、植生等の事前モニタリング調査を実施(10.61ha)した。 兄島(台地上緩傾斜地)において、モクマオウ等駆除木のマーキング(16.38ha)を実施した。	(駆除後のモニタリングは林 16 で実施予定)			
その他外来植物、普及啓発等	林 5	南島ボランティア協力	南島	-	-				
	林 6	小笠原原生植生回復ボランティア	母島	アカギの駆除、植生回復のボランティアを企画・開催	10 月 10 日に母島桑の木山において、18 名(内地 13 名、現地 5 名)のボランティアが参加し、アカギの萌芽刈払い、稚幼樹の抜き取り等(0.5ha)を実施した。小笠原母島観光協会と共催。	アカギの駆除、植生回復のボランティアを企画・開催	11月7日に母島桑の木山において、31名(内地 19 名、現地 12 名)のボランティアが参加し、アカギの萌芽刈払い、稚幼樹の抜き取り等(0.5ha)を実施した。小笠原母島観光協会と共催。	現地の安全を確認し実施予定	

種名	事業項目		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)	
林 8	外来植物駆除作業体験への協力等	南島、父島等	小笠原中学校の駆除体験活動に協力等	<p>次の外来植物の駆除体験活動を実施するにあたり、事前レクチャー及び安全指導を実施した。</p> <p>小笠原中学校のアルマジロ等の駆除作業体験を 10 月 28 日に開催し(都レンジャー、野生研と協働)、地元教員 5 名、生徒(1 年生)18 名が参加して、103Kg の外来植物を駆除した。</p> <p>小笠原中学校のアカギの駆除作業体験を 11 月 6 日に開催し(NACS-JO と協働)、地元教員 5 名、生徒(1 年生)18 名が参加した。</p> <p>モクマオウ等の駆除作業体験を、8 月 25 日～9 月 2 日に開催し(野生研と協働)、東京農業大学ボランティア部 22 名が参加した。駆除木は、木炭及び歩道修繕の材料として有効活用を図るとともに駆除後のモニタリングを継続実施している。</p> <p>母島桑の木山において、アカギの駆除作業体験を 9 月 14 日に開催し、萌芽刈払い、稚幼樹の抜き取り等(0.5ha)を行い、ナショナルランド 5 名が参加した。</p> <p>アカガシラカスバト等の餌木の増殖体験を 11 月 9 日・16 日に開催(野生研と協働)し、村民 20 名が参加した。</p> <p>海岸林の再生等を目的として増殖体験を 12 月 4 日に開催し(野生研と協働)、コルゲート大学 5 名が参加した。</p>	小笠原中学校の駆除体験活動に協力等	<p>次の外来植物の駆除活動を実施するにあたり、事前レクチャー及び安全指導を実施した。</p> <p>小笠原中学校のアルマジロ等の駆除作業体験を 12 月 18 日に開催し(都レンジャー、野生研と協働)、地元教員 3 名、生徒 13 名(1 年生)が参加して、外来植物を駆除した。</p> <p>小笠原中学校のアカギの駆除作業体験を 11 月 4 日に開催し(小笠原自然観察指導員連絡会と協働)、地元教員 4 名、生徒 11 名(1 年生)が参加した。</p> <p>モクマオウ等の駆除作業体験を、8 月 24 日～9 月 3 日に開催し(野生研と協働)、東京農業大学ボランティア部 34 名が参加した。駆除木は、木炭及び歩道修繕の材料として有効活用を図るとともに駆除後のモニタリングを継続実施している。</p> <p>母島桑の木山において、アカギの駆除作業体験を 12 月 15 日に開催し(母島観光協会と協働)、萌芽刈払い、稚幼樹抜き取り(0.3ha)日本自然環境専門学校(講師 1 名、学生 10 名)が参加した。</p> <p>母島南崎において、キンネムの駆除作業体験を 3 月 5 日に開催し(母島観光協会と協働)、稚幼樹の刈り払い及び抜き取りを行い、内地大学生 10 名が参加した。</p>	必要に応じ協力または継続予定	
林 10	地元 NPO と連携した外来植物駆除	父島等	在来種の植生回復を図るための地元 NPO との整備協定を締結し、外来種駆除(モクマオウ等)を実施	整備協定締結について条件整備を進めた。21 年度に締結する予定。	在来種の植生回復を図るため、地元 NPO 等と整備協定を締結し、外来種駆除(モクマオウ等)を実施予定	小笠原諸島森林生態系保護地域において、固有の森林生態系の修復・保全等の活動をボランティア団体等と国有林が協働・連携して実施するため、22 年 3 月に地元 NPO 等と協定を締結した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原自然観察指導員連絡会(旭山国有林約 154ha)</li> <li>特定非営利活動法人小笠原クラブ(西島国有林約 43ha)</li> <li>特定非営利活動法人小笠原野生生物研究会(旭山国有林約 14ha)</li> </ul>	協定を締結した地元 NPO 等と協働・連携し、固有森林生態系の修復・保全のための外来種駆除や固有動植物の調査等を実施する予定。	
林 17	ノネコ	父島	ノネコの緊急捕獲	父島東平において、ノネコの緊急捕獲を実施し、7 匹を捕獲した。捕獲したネコは小笠原ネコに関する連絡会協力のもと東京都獣医師会へ搬送した。	ノネコの緊急捕獲	父島東平において、ノネコの緊急捕獲を実施した。捕獲したネコは小笠原ネコに関する連絡会協力のもと東京都獣医師会へ搬送した。	必要により実施予定	



種名	事業項目			平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)		
固有種等	林 18	希少野生動植物種の保護管理等	父島・母島	希少野生動植物種の保護・保全等	政令指定されたアカガシラカラスバト等4種、ムニンツツジ等12種を対象に自然保護管理員による巡視を実施した。 アカガシラカラスバト等野鳥の水場を確保するため母島に人工水場を設置し、点検・清掃を実施した。 入り込み者への普及・啓発のためグリーン・サポート・スタッフによる巡視、啓発用のチラシの配布を行った。	希少野生動植物種の保護・保全	種の保存法に基づく政令指定されたアカガシラカラスバト等4種、ムニンツツジ等12種、オガサワラシジミ等5種を対象に自然保護管理員による巡視を実施した。 アカガシラカラスバト等野鳥の水場を確保するため母島に人工水場を設置し、清掃、水の補給を地元協力者により年間36回実施した。 入り込み者への普及・啓発のためグリーン・サポート・スタッフによる巡視、啓発用のチラシの配布を行った。	希少野生動植物種の保護・保全を実施予定	
	林 19	希少野生動植物種保護管理対策調査	母島列島、父島	アカガシラカラスバト保護管理対策調査	アカガシラカラスバトの保護対策に資するため足輪を2羽に装着した。生息環境等の調査を行った。	アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査  アカガシラカラスバト生息環境等基礎調査	アカガシラカラスバトへの足輪の装着はできなかった。アカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワの生息環境等の調査を母島及び向島、姉島、妹島、姪島で32日間実施した。  父島においてアカガシラカラスバトが多く目撃されている地域の森林環境調査、生息環境保全のための課題抽出、普及啓発資料の作成等を実施した。	アカガシラカラスバトの保護対策に資するため足輪装着並びにアカガシラカラスバト及びオガサワラカワラヒワ保護管理対策調査(母島、向島、姉島、妹島及び姪島)を実施予定  生息箇所の把握、自動撮影カメラ設置による出現状況の調査	
	林 20	父島アカガシラカラスバトサンクチュアリー整備	父島	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等	地元 NGO 等の協力を得て、リュウキュウマツ等外来植物の駆除を実施した。 利用ルールにより、アカガシラカラスバトを保護した。	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等	地元 NGO 等の協力を得て、リュウキュウマツ等外来植物の駆除を実施した。 利用ルールにより、アカガシラカラスバトを保護した。	アカガシラカラスバトの生息環境の維持修繕、保護等を実施予定	

実施機関：東京都

事業項目				平成20年度		平成21年度		平成22年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)	
ノヤギ	都1	兄島・弟島植生回復事業	兄島	残存個体の着実な排除(根絶)。  残存個体数の把握。  残存状況を踏まえたノヤギ探索犬の導入の検討。  植生回復状況等のモニタリングの継続。	残存個体が確認されなかったため排除作業は実施せず。 目視や糞の残留調査により、残存個体の確認を行ったが、生息は確認出来なかった。 導入せず  植生回復状況のモニタリングを継続実施。	都レンジャーによる巡回作業の一環で、目視による残存個体や糞粒の確認。	巡回や各種調査の結果、生息の痕跡は確認されず根絶と判断		『小笠原弟島・兄島ノヤギ排除検討委員会』にて検討
			弟島	弟島のノヤギ排除計画を作成し排除に着手。 ノヤギ排除の影響・効果等のモニタリングを実施。	ノヤギ125頭を排除(罾19頭、銃撃106頭)。ノヤギ探索犬を導入した。 コドラートを設置し、植生に対する影響・効果を調査。	残存個体数の把握と共に、根絶を目指す。 モニタリングの継続。	ノヤギ89頭を排除(すべて銃器)。残りは10頭程度と思われる。  オガサワラグワなど、植生についてモニタリング調査を実施	今年中の根絶を目指して排除作業を継続  モニタリング調査の継続	
			父島			父島のノヤギ排除手法の検討。 関係機関と連携の上、排除作業実施に向けた島内調整。	父島の生息調査を実施。父島の生息数は約1000~1500頭と推定。 生息調査を受け全体排除計画の調整(継続中)	排除計画策定後、排除作業に着手	
プラナリア	都2	都レンジャーの配置	父島 母島 属島	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発や利用者指導を継続実施。	父島から母島及び属島への拡散を防止するための普及啓発、利用者指導の継続。	都レンジャー 父島3名 母島3名
ギンネム、ヤダケ、その他外来植物	都3	聟島列島植生回復モニタリング	聟島 媒島	平成19年度に引き続き、聟島列島における、自然環境モニタリングを実施。  聟島列島の植生復元のために必要な残存林保全のための外来種排除。 在来動物に対する植生回復事業の効果と影響を把握するための海鳥類等の生息状況調査。	植物群落、海鳥繁殖(アホウドリ類以外)、昆虫類、陸産貝類、海底環境や外来種生育状況の調査を行い、植生回復事業の評価を行うための基礎資料を得た。 ギンネム・タケ・ササ類の生育状況を確認後、一部除去作業を実施。  海鳥(カツオドリやオナガミズナギドリ)の繁殖状況の調査を実施。	平成20年度に引き続き、聟島列島における、自然環境モニタリングを実施。 聟島列島の植生復元のために必要な残存林保全のための外来種排除。	継続して、外来種生育状況、海鳥類、昆虫類、陸産貝類のモニタリング調査を実施  ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.6ha、新規0.1ha実施	継続してモニタリング調査を実施  ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.7ha、新規0.04ha実施(同一箇所では3年は駆除作業を継続)	『小笠原国立公園媒島・聟島植生復元測量調査・設計検討委員会』において検討

事業項目			平成20年度		平成21年度		平成22年度	備考	
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)		
	都4	媒島植生回復事業	媒島	平成19年度に引き続き、屏風山残存林周辺部における伐採実験区を設定し、タケ、ササ類の刈り込みを実施。 土砂流失対策を最優先に植生の回復を進めて行く。荒廃した植生に入り込んだ外来種排除作業を伐採実験区を設定し、進めて行く。	タケ、ササ類の刈り込みを実施。  小規模なダムを5基設置。  ギンネムの伐採を実施。	引き続きギンネム、タケ、ササ類の排除。  引き続きダム等を設置するなど、土砂流出対策を実施。	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続2.5ha、新規1.6ha実施  聶沢支流でのり切工、土のう筋工、侵食防止シート工などを実施	ギンネム・タケ・ササ類の排除作業を継続4.1ha、新規2ha実施 (同一箇所では3年は駆除作業を継続)  引き続き、ダム設置、のり切工、侵食防止シート工や仮設モノレールの設置等を行う。	「小笠原国立公園 媒島・聶島植生復元測量調査・設計検討委員会」において検討
	都5	南島植生回復事業	南島	継続的な事業実施。 引き続き調査を行いながら、段階的に外来草本の排除を進める。	シンクリノイガ、コマツヨイグサ、オオバナセングサ及びアレチノギクの除去を計20回実施し、除去量546.4kg(90ゴミ袋で87袋)。	継続的な事業実施。 侵略的な外来種について、優先順位を決めて排除。	シンクリノイガ、コマツヨイグサ、オオバナセングサ及びアレチノギク等の除去を計26回実施し、除去量1480kg(90ゴミ袋で270袋)。	継続的な事業実施 侵略的な外来種の排除 (シンクリノイガ等の外来草本及びモクマオウ、ガジュマル等の外来木本の排除を実施、ネズミ排除を検討)	地元NPOにおいても関連機関(小笠原総合事務所 国有林課、小笠原村)の協力のもと外来種駆除ボランティアを実施している。
	都6	南島自然環境モニタリング	南島	モニタリングの継続。	微地形、植生、気象観測、クマネズミ生息、利用状況、訪花昆虫等の調査を実施。	モニタリングの継続。	微地形、植生、気象観測、外来植物分布、クマネズミ生息、海鳥類、利用状況、訪花昆虫等の調査を実施。	モニタリングの継続。	「南島モニタリング調査検討委員会」にて検討
アカガシラカラスバト	都7	アカガシラカラスバト保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して恩賜上野動物園と多摩動物公園で保護増殖を実施	23羽飼育(上野19、多摩4)。 産卵数39、5羽孵化、2羽成育。 抱卵と育雛に関する行動解析を実施 (共同研究:日本獣医生命科学大)	継続して保護増殖を実施	25羽飼育(上野19、多摩6)。 産卵数65、18羽孵化、7羽成育。	継続して保護増殖を実施	アカガシラカラスバト保護増殖分科会にて検討
	都8	アカガシラカラスバト生息調査	火山列島	遺伝的多様性調査のため、北硫黄島において生息調査を実施	5箇所が生息確認。脚部確認3個体では足環は見られず。	遺伝的多様性調査のため、北硫黄島において生息調査を実施	1羽を捕獲、足環付け、DNAサンプル採取。	北硫黄島において生息調査を予定(6月)	「
オガサワラシジミ	都9	オガサワラシジミ保護増殖事業(域外保全)	内地	継続して多摩動物公園で保護増殖を実施	3個体採集、産卵32、孵化27、羽化25	継続して保護増殖を実施	小笠原で採卵、卵12、幼虫36搬入	継続して保護増殖を実施し、飼育繁殖技術の確立を目指す。	「小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議」にて検討
アホウドリ類	都10	アホウドリ類繁殖状況調査	聶島列島 父島列島 母島列島	アホウドリ類 クロアシアホウドリ、コアホウドリ)における産卵数、雛数等の繁殖状況を調査	聶島列島においてクロアシアホウドリ775羽、コアホウドリ14羽の巣立ち直前雛を確認。 母島列島においてクロアシアホウドリ7羽の巣立ち直前雛を確認。	継続して繁殖状況調査	聶島列島においてクロアシアホウドリ794羽、コアホウドリ9羽の巣立ち直前雛を確認。 母島列島においてクロアシアホウドリ7羽の巣立ち直前雛を確認。	継続して繁殖状況調査 父島列島で、初めてクロアシアホウドリの繁殖を確認。4羽を確認。 聶島列島でクロアシアホウドリ915羽、コアホウドリ14羽を確認 母島列島でクロアシアホウドリ9羽を確認	地元NPO 小笠原自然文化研究所と連携して実施。



実施機関：小笠原村

事業項目				平成20年度		平成21年度		平成22年度	備考
種名		事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果(概要)	事業内容(案)	
シンクリノイガ	村1	外来種啓発事業	南島	南島において、外来種啓発事業を年3回行う。この事業は、島民への普及啓発を目的とするもので参加率の高い属島での実施が好ましい。 第1回：H20.5.29(南島) 第2回：H20.9.25(兄島) 第3回：H21.3.20(南島)	除去量：680 kg(第1回：180 kg、第2回：300 kg、第3回：200 kg) 参加人数：65名(第1回：22名、第2回：15名、第3回：28名) 今年度は第2回目に兄島を設定し、除去対象をランタナにしたがランタナは根が強くポランティアでは対応が難しいため3回目は南島での実施となった。	21年度は、島民に属島の価値感を理解していただくため、南島以外の属島での外来種対策を検討する。 実施規模は年3回程度とする。	東京都が委託化したことにより、実施せず。	さらなる島民の意識高揚のため、実施を検討。	

実施機関：民間・共同・その他

事業項目			平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	備考
種名	事業名称	島・地域	事業内容	事業結果	事業内容	事業結果	事業内容(案)	
ネコ	民 1 緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	父島・母島・弟島	父島東平・衝立山等においてハト繁殖期に実施 母島南崎については、柵は出来たものの、柵の外側での予防的捕獲について前年度同様実施 ハトの生息する弟島で実施	東平・衝立山等で 12 頭、南崎で 3 頭、弟島で 1 頭を捕獲し島外搬出した。	父島東平・衝立山・農業センター等においてハト出現時期に緊急捕獲を開始し、その後父島の全域捕獲を前提に作業範囲を展開中。 母島南崎については、柵外側での予防的捕獲について前年度同様実施 母島山域のハト出現場所で緊急捕獲実施 ハトの生息する弟島で実施	父島で 33 頭、母島で 12 頭、弟島で 2 頭を捕獲し、このうち計 39 頭を島外搬出した。	緊急捕獲事業、平成 21 年度より山域捕獲事業	(小笠原のネコに関する連絡会議にて検討)
ネコ	民 2 適正飼養推進事業	父島・母島	ワークショップの結果を踏まえ、東京都獣医師会に、飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣動物診療団を要請(財)自然保護助成基金助成事業)	派遣動物診療団により、父島・母島で計 26 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 17 頭にマイクロチップを挿入した。父島・母島で計 31 頭のイヌを診療した。派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適性飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。	東京都獣医師会に、飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣動物診療団を要請((財)自然保護助成基金助成事業の継続) 母島・父島飼養動物調査の結果を受け、動物派遣診療による達成評価	派遣動物診療団により、父島・母島で計 60 頭のネコを診療し、このうち未装着なネコ 25 頭にマイクロチップを挿入した。父島・母島で計 58 頭のイヌを診療した。マイクロチップ挿入率は母島で 90%、父島で 58%を達成した。派遣獣医師による飼い主との懇談会を開催し、適性飼養の推進と野生動物保護の理解を図った。	東京都獣医師会に、飼いネコの適正飼養やマイクロチップ装着推進に関するため派遣動物診療団を要請(小笠原村事業に小笠原のネコに関する連絡会議、島民飼い主の会等が協力)	(小笠原のネコに関する連絡会議にて検討)
クマネズミ	民 3 西島クマネズミ根絶プロジェクト	西島	西島の生態系、特に植生の健全化をモニタリング(ただし、モクマオウが急増している) 聟島・東島など同等程度の範囲での新たな駆除の実施(環境省事業)	情報確認中	情報確認中			
グリーンアノール	民 4 オガサワラシジミ保護対策	母島	食草確保・域外における累代繁殖(東京都立多摩動物公園) 重要地点でのアノール駆除の実施(環境省・チョウ類保全協会・シジミの会) 食草確保(シジミの会)	情報確認中	情報確認中			オガサワラシジミ保全連絡会議にて検討
モクマオウ・リュウキュウマツ	民 5 モクマオウ等駆除事業	父島	同規模にて継続(小笠原野生生物研究会)	情報確認中	情報確認中			

【実施機関】

No.1 小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)、小笠原自然解説指導員連絡会、(社)東京都獣医師会が実施。

協力:島内獣医師、ボランティア(捕獲・飼育)、小笠原海運(株)、母島観光協会、関東地方環境事務所、東京都環境局

No.2 (社)東京都獣医師会と小笠原ネコに関する連絡会議(自然保護官事務所、小笠原総合事務所国有林課、支庁、村、村教委、NPO 小笠原自然文化研究所)が実施。 協力:NPO どうぶつたちの病院。主な活動資金は(財)自然保護助成基金助成事業による。

No.3 (独)森林総合研究所、(財)自然環境研究センター(環境省総合環境政策局一括計上研究費を活用)

No.4 オガサワラシジミの会、環境省、神奈川県立博物館、東京都動物園協会(東京都立多摩動物公園)、NPO チョウ類保全協会(民間団体の活動の一部については(財)自然保護助成基金助成事業)

No.5 NPO 小笠原野生生物研究会が実施(H19 年度より(財)自然保護助成基金助成事業) 協力:小笠原総合事務所国有林課